

囚徒おぼえ書 (連載第六回)

拷問切羽

二十四分会(本所) 武松輝男

炭素と水素の化合物、炭化水素ガス(メタンガス)が噴出したのは、囚徒たちが拷問切羽と呼ばれる、四十八片部内四十八片の探炭切羽であった。

この拷問切羽は、第一堅坑底から、およそ千四百四十メートルの距離にあった。

拷問切羽は、数多くある囚徒切羽の中でも、きわだって気温が高く、湿度もまた高いところであった。気温はゆうに華氏百度(摂氏三十七、八度)をこえていた。このような高温高湿が、囚徒坑夫の疲労を倍加させていた。

このため出炭能率が落ちた。ほかの出炭能率は、おおよそ五十割であった。しかし、この四十八片では、一方で十八割の出炭能率が低かった。その結果、囚徒の不足が、定められた出炭能率に満たないという点で、処分の対象になった。

板に死体を載せた。そして二人の囚徒が、その戸板を担いだ。第一堅坑底までは、長い道のりであった。

堅坑底で、円錐形を二つ合せたような、竹で編んだ籠に死体を移した。そして、その籠で包まれた死体を、十トンの双筒の蒸気起重機が吊り上げた。はげしい蒸気の交錯する音が、この世との別れを告げていた。

そこは、生きたかであった。風も吹いていた。

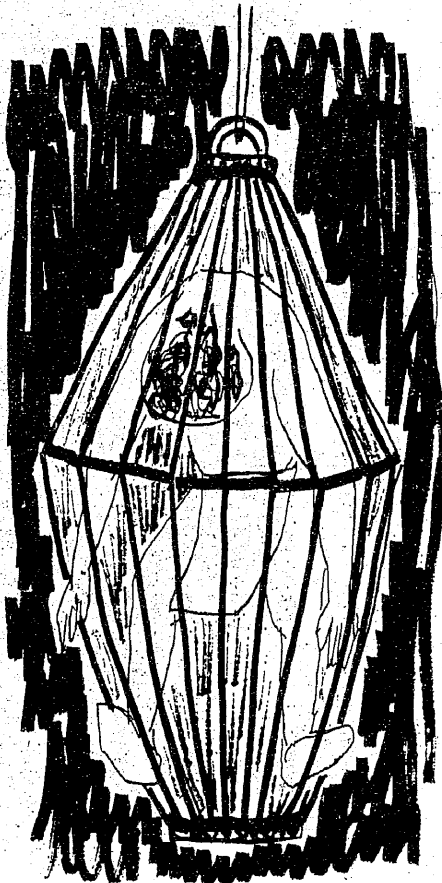
看守の指示に従って、ガスがほとんどない長い片盤のなかばまで死体を運んだ。

ありあわせの板切れで作った戸性のガスが噴出することがわかった。

「死体は、勝利の、ほら、大砂の丘の上まで運んできた。あそこには、コンクリートで円造った井戸のようなものがありまうが、そのうしろには石碑が建てられています。死体は、その井戸のフタを開けて、ストンと投げ込むだけです。焼場にはもっていかんのです。監獄中のごときはよくわかりませんが、焼場に持って行くのは、坑内で死んだ者ばかりで、病気で死んだ者だけといわれまうが、それだから、あんまり災害で死んだ死体が多いときは、虫がわいてくる。ウジがわいてはいかなくていいです。」

あの白いウジ虫が、フタのフチにかたまわって、あんなときも、多分、ウジがわいてきたと思ひます。なにせ前年にも五人も死んだました。

それに、あんな、フタは開けたとき、あの臭いは、そりゃあ、何ともいわれんのです。この世の臭いじゃなかったです。」



死体竹籠



主婦業一年生

主婦

私が結婚して、十四年間、ほんとうに主婦業をやってきた。他人から見れば、なにを悩むんだろうかと、夜、食事をしながら、子供たちが「今日はおいし」「今日の味はあまみ」などといってくるので、それで味付けを勉強しているところだ。料理が上手な人は、女として幸せだろうと私は思う。私も、早く料理がなんでもできるような頭張りたいと思っています。「おふくろの味」という言葉は大好きです。

世間でいうような花嫁修業もしないで結婚し、すぐに仕事についたので、料理がぜんぜんできなかったのです。それを母親が、なんにもいわず家庭を守り子供を育ててくれたので、私は仕事に専念することができたのです。義母に、ただ感謝するようになったのに、本当にできる一日が、あつという間に過ぎ

三月の生活メモ

○弥生(やよい)。英語のMarchはローマ神話に登場する春の豊作の神。一日はピキニデー。二十八年前、南太平洋ピキニ環礁で第五福竜丸が被爆した日。全国緑化運動開始。三日はひな祭り。同日の耳の日、ヘレンケラーにサリバン女史が教育を始めた日。七日は消防記念日。八日は国際婦人デー。一九〇四年、アメリカの婦人たちが婦人参政権獲得のストライクを掲げた日。十日は東京空襲の日。二十日は動物

○天然皮革のランドセルや革製品は乾燥しすぎると表面がカサカサして寿命が短くなります。市販の皮革油をすり込むと乾燥を防ぎます。汚れた皮革用クリーナーを

三月、植木の手入れ

二十二分會(三川) 田上 勇

盆栽の植え替え

(鉢替えともいう)

植物は芽が動きはじめる以前に、根は早く活動をはじめています。この頃に植え替えをしないと、根の再生も早く、枯れ込むことも少ないものです。昨年一年間で、鉢のなかいっぱいに広がったので、鉢のなかから根をとりだして、新しい鉢に植え替えます。

植物は芽が動きはじめる以前に、根は早く活動をはじめています。この頃に植え替えをしないと、根の再生も早く、枯れ込むことも少ないものです。昨年一年間で、鉢のなかいっぱいに広がったので、鉢のなかから根をとりだして、新しい鉢に植え替えます。

短歌 ポーランドの悲劇

二十分会(三川) 町 佳郎

松の内明けて学期の始まれば寒さといわず娘ら登校し行けり正月も過ぎで幾週残りの餅(もち)を焼きてうからと食(は)めり戒厳令しかれ多く労働者の逮捕さるポーランドは悲し雪降りしきる雪しまく街頭に警備な兵士軍政はあまなく全土を覆う店頭に糧(りやう)も(と)めんと連なれる人多しポーランド経済日々細りゆく坑内(しき)にたてこもりて軍政に抗(あらが)いいいし労働者もなべては捕われいんが労働者の自治を求めて闘いしワレサ議長も逮捕されたり希望なき祖国を逃る者多く今日外交官の亡命し行きぬ戒厳令解けると聞けどいまだしも逮捕者数(す)千と新たな記事とつ国の悲劇とのみいねひたひたと軍靴のひびき迫るこの国

消毒の施肥

植物の活動と同時に、害虫も活動をはじめます。週一回か週二回ぐらいは消毒した方がよいでしょう。肥料は、芽出し肥といつてつぼみをつけたものには必要です。植物に勢いをつけ、発育をうながし美しい花を咲かせるのによいといわれています。今から、各地で植木市などが開かれ、愛好家のタメ息をそそりますが、できれば数多くの名品を見てまわり、よく聞き自分の糧として下さい。

苗木などの植付け

庭木などの移植や、仮植の定植なども今からがよいときです。穴を掘り、水をたっぷり入れ、ドブドブにして植付けする人はいます。前号四面「小崎さんを送る」の文中、短歌の部分で「職研の編集に使えと目(め)が……」とあるのは、自(し)が正しく、訂正し

【訂正】